

令和5年度 戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ＜基本目標＞ 人間尊重の精神を基盤とし，自ら考え，正しく判断し，思いやりをもって実践できる，心豊かでたくましい戸祭の子の育成を図る。
- ＜具体目標＞（目指す子ども像）
- ・ 体力と気力あるたくましい子ども
 - ・ 進んで学び深く考える子ども
 - ・ 心豊かで礼儀正しい子ども
 - ・ 最後までやりぬく子ども
- ＜合言葉＞ 『けじめ がんばり 思いやり』

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （１）児童が自立と共生を果たし，持続可能な社会の創り手となれるよう，教育目標達成に向けた指導を果敢に展開する。
- （２）教職員が専門性とチーム力を磨き，児童・保護者・地域から信頼される安定感のある学校づくりを進める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）すべての児童が安心し活力ある学校生活が送れるよう，本校の合言葉「けじめ・がんばり・思いやり」の観点から児童の発達・成長に資する取組の充実を図る。
- （２）「分かった」「できた」「感動した」体験の積み重ねにより，児童の自己肯定感や豊かな心を育み，将来への展望が培われるよう，教育活動の質を高め，認め励ます教育を推進する。
- （３）児童一人一人の人権の保障と教育的ニーズを踏まえた適切な指導により，児童・保護者との信頼関係を基盤とした学校づくりを進める。
- （４）教職員の創意工夫ある実践を奨励するとともに，校務の重点化・焦点化を推進し，職務遂行能力の一層の向上と，児童と向き合う時間の充実を図る。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成 ～認め合い，学び合い，高め合う児童生徒を育てる取り組みを通じて～

4 教育課程編成の方針

- （１）教育関係諸法令や学習指導要領，とちぎ教育ビジョン2025，第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画・令和5年度指導の重点，星が丘地域学校園小中一貫教育グランドデザインを踏まえて編成する。
- （２）児童に生きる力を育むことを目指し，教育目標や本年度の学校経営の方針，重点目標の具現化が図られるように編成する。
- （３）本校の歴史と伝統を踏まえ，児童の実態や本校の特色，地域の教育力を生かした特色ある教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （１）学校運営
- ・ 校内研修の充実による指導力（授業力・学級経営力等）向上と同僚性の強化
 - ・ 郷土を愛し持続可能な社会を志向する主権者教育の推進
 - ・ 星が丘地域学校園教育ビジョンに基づく共通実践の推進
 - ・ 保護者，地域との積極的な協働による開かれた学校づくり
 - ・ 質の高い教育活動を持続的に行うための校務の改善
- （２）学習指導
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の実践と改善
 - ・ I C Tの積極活用や特別支援教育の視点を取り入れた個別最適な指導の充実
 - ・ 高学年教科担任制による教科指導の充実
 - ・ 家庭学習と読書（家読）の習慣化
- （３）児童指導
- ・ 道徳科を中核とした「心の教育」の推進
 - ・ いじめや不登校を生まない温かい学校・学級風土の醸成
 - ・ 学級活動や児童会活動における自治的活動の推進と校内ルールの適正化
 - ・ 児童の逞しさを涵養する認め励ます指導の充実
- （４）健康（保健安全・食育）・体力
- ・ 運動機会の創出と教科体育の充実等による体力向上
 - ・ 望ましい食習慣の形成と食に対する感謝の心の育成
 - ・ 家庭と連携した健康を自己管理する能力の育成
 - ・ 学校内外での安全意識の向上と危険回避能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 上段 令和4年度 中談 令和5年度 下段 令和5年度市平均 ※ 新設問のため、比較値無し																
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	1 「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の実践 ・見通しがもてる「めあて」の提示 ・学び合いを効果的に取り入れた授業展開 ・個に応じた指導の充実 ・発問や板書の工夫 ・デジタル機器の効果的な活用 ・学びをまとめ、振り返る活動の充実 2 学びに向かう態度の育成 ・「よい子のきまり」に基づく望ましい学習態度の指導 ・家庭学習の習慣化を図る指導と啓発、家庭との連携の強化	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>※</td><td>※</td><td></td><td></td></tr><tr><td>93.3</td><td>94.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>90.7</td><td>95.8</td><td></td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 ・効果的な学習形態を工夫し、児童が学び合いを通して主体的に学習に取り組めるよう、教師の指導力向上を図る取組を実践していく。 ・年度始めや家庭学習強化週間の取組に合わせて、「家庭学習の進め方」や「自主学習の進め方」などで発達段階に応じた家庭学習の方法について示し、家庭との連携を強める。	児童	教職員	保護者	地域	※	※			93.3	94.3			90.7	95.8		
児童	教職員	保護者	地域																	
※	※																			
93.3	94.3																			
90.7	95.8																			
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 85%以上	1 様々なあらゆる場面での心の教育の推進 ・本校の合言葉「けじめ がんばり 思いやり」の周知の徹底 ・2か月に1回（各月10日）の「ありがとうの日」における感謝の気持ちを伝え合う活動の実施 ・師弟同行を基本とする、他者の気持ちに配慮した言葉かけの実践 ・異学年交流の場を生かした、思いやりの心の醸成と場に応じた言葉遣いの奨励 2 幼稚園保育園、聾学校との交流活動と、各特別支援学校との居住地校交流の実施 3 人権教育の推進 ・道徳科や各教科の授業における指導 ・日常生活における人権意識の高揚を図る指導 ・学級経営等における教職員の率先垂範 ・人権集会の実施	A	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>※</td><td>87.9</td><td>93.7</td><td>※</td></tr><tr><td>89.1</td><td>97.1</td><td>93.2</td><td>100.0</td></tr><tr><td>90.5</td><td>96.9</td><td>93.4</td><td>96.9</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・あらゆる場面での心の教育を推進するために、児童の声を生かした掲示物を作成し、児童が、互いのよさや他者への感謝の気持ちを認め合い伝え合える環境づくりを推進する。 ・「思いやり」のある行いについて、教師が紹介したり友達と発表し合ったりする時間を設け、思いやりの心を広げていく。	児童	教職員	保護者	地域	※	87.9	93.7	※	89.1	97.1	93.2	100.0	90.5	96.9	93.4	96.9
児童	教職員	保護者	地域																	
※	87.9	93.7	※																	
89.1	97.1	93.2	100.0																	
90.5	96.9	93.4	96.9																	
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上	1 目標を設定して取り組ませる指導の充実 ・学期始め等に学習及び生活に関する目標を立てる指導 ・授業等における、児童が達成可能な課題の提示 ・結果だけでなく、途中の過程でも認め励ます指導の充実 ・児童同士が認め合う場の設定 ・本校の合言葉「けじめ がんばり 思いやり」の周知の徹底 ・家庭での学習時間の目安の設定と自主学習ノートの点検 ・体育における検定カードの活用	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>86.9</td><td>84.8</td><td>78.1</td><td></td></tr><tr><td>88.7</td><td>100.0</td><td>82.8</td><td></td></tr><tr><td>88.9</td><td>94.9</td><td>82.0</td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 ・毎日の授業の中で達成した喜びを味わわせ、大きな目標につなげるとともに、達成感が味わえるような目標を考えさせ、検定カードや自主学習の取組につなげる。 ・全校での計算検定等の実施を通して、児童の計算技能の向上を目指し、6年間を通して目標に向かって意欲的かつ継	児童	教職員	保護者	地域	86.9	84.8	78.1		88.7	100.0	82.8		88.9	94.9	82.0	
児童	教職員	保護者	地域																	
86.9	84.8	78.1																		
88.7	100.0	82.8																		
88.9	94.9	82.0																		

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、授業の終末の振り返り等で自己の成長を確認できる場の設定 	<p>続的に学習に取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「けじめ・ <u>がんばり</u>・ 思いやりの表彰」や「宮っ子心の教育表彰」で児童の頑張りを認めることにより、自己肯定感を高める。 ・様々な活動において、頑張る姿を児童同士が認め合う場を設定することで、自己肯定感を高める。また、目標達成までの過程を認め励ます指導の充実を図る。 																
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒教職員の肯定的割合 85%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p> <p>⇒地域住民の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 運動の習慣化を図る指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの奨励 ・教科体育の指導の充実 <p>2 望ましい食習慣を図る指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して食べるための「もぐもぐタイム」の徹底 ・食事マナーの指導 ・お弁当の日の実施 <p>3 健康的な生活習慣づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の換気やうがい手洗いの徹底 ・新しい生活様式の実践 ・家庭での実践も含めた歯磨きの励行 ・1年生の歯の染め出し <p>4 安全教育の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の実施 ・校内生活に関する指導（特に雨天時） ・昼休みの遊び方のきまりの指導 ・交通安全教室や自転車免許事業の実施 ・災害への備えと適切な行動習得のための多様な避難訓練の実施 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>81.8</td><td>91.0</td><td>※</td></tr> <tr> <td>93.6</td><td>91.4</td><td>92.7</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>92.5</td><td>94.8</td><td>90.2</td><td>99.1</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前の給食の時間の状態に戻すとともに、全校で「歯磨きタイム」も復活させる。 ・ロング昼休み等には、児童の安全確保のため、職員による巡回指導を行う。 	児童	教職員	保護者	地域	※	81.8	91.0	※	93.6	91.4	92.7	100.0	92.5	94.8	90.2	99.1
児童	教職員	保護者	地域																
※	81.8	91.0	※																
93.6	91.4	92.7	100.0																
92.5	94.8	90.2	99.1																
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的割合 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 児童の自己肯定感を高めるための教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相互に認め合う機会の設定 ・担任だけでなく、全職員で認め励ます指導の実践 ・自己肯定感を高めるような道徳の授業の実施と情報交換 ・児童が主体的に活動する場の確保 ・キャリアパスポートや「ありがとうカード」を活用した自己肯定感の育成 ・「戸祭の子表彰」の実施 <p>2 コミュニケーション力の育成</p> <p>3 「協働的な学び」の実践</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>※</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>91.3</td><td>91.4</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>89.6</td><td>95.4</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己肯定感を高めるため、個々が活躍できる場を設定するとともに、授業中（ペアやグループ活動の充実）を含め、学校生活の中で互いのよさを認め合う教育活動を日常的に推進する。 ・自分の頑張りを発表する場を設けて、学級全体で児童の良さを共有したり称賛したりしていく。 ・特別活動の場で、児童が主体的に活動する時間を確保する。 	児童	教職員	保護者	地域	※	※			91.3	91.4			89.6	95.4		
児童	教職員	保護者	地域																
※	※																		
91.3	91.4																		
89.6	95.4																		
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的割合 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 外国語活動の授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達の段階に応じた活動や話題の提示 ・十分な音声インプットの確保 ・既習事項を取り入れたスモールトークを効果的实践 <p>2 英語専科教員やA L Tとの授業外の交流の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事へのA L Tの参加 ・英語や諸外国に関する掲示コーナーの作成 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>87.9</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>81.6</td><td>85.7</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>82.9</td><td>93.8</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室に外国語で書かれた本を増やす。 ・担任によるスモールトークをさらに充実させる。 ・外国語に触れる掲示コーナーの範囲の拡充や場所の工夫を適宜行う。 	児童	教職員	保護者	地域	※	87.9			81.6	85.7			82.9	93.8		
児童	教職員	保護者	地域																
※	87.9																		
81.6	85.7																		
82.9	93.8																		

	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 宇都宮市の良さを学ぶ学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科・総合的な学習の時間の授業等での宇都宮学の指導 ・校外学習による直接的な見聞 ・地域の人たちとの交流活動の実施 ・総合的な学習の時間における「地域の方と仲良くなろう」等の実施 ・地域の先人を扱った道徳科の授業 ・郷土の行事食等による給食の実施 	<p>【達成状況】</p> <table> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>84.9</td><td>63.9</td><td>68.1</td><td></td></tr> <tr> <td>87.8</td><td>71.4</td><td>72.3</td><td></td></tr> <tr> <td>86.9</td><td>87.9</td><td>72.8</td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童には、「宇都宮学」が浸透していると考えられるので、「宇都宮学」の指導計画のもと、各学年において宇都宮市のよさを学ぶ学習の充実を図るとともに、校内での取組を学校HP等で紹介し、広く周知する。 ・授業参観やオープンスクールなどで、宇都宮のよさを取り上げた授業を積極的に公開する。 	児童	教職員	保護者	地域	84.9	63.9	68.1		87.8	71.4	72.3		86.9	87.9	72.8	
児童	教職員	保護者	地域																
84.9	63.9	68.1																	
87.8	71.4	72.3																	
86.9	87.9	72.8																	
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 デジタル機器や図書等を活用した教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務用パソコンや1人1台端末、50インチディスプレイ等を活用した授業の実施 ・学校図書館の利用指導の充実と、学習センター/情報センターとしての図書館利用の推進 ・市立図書館と連携した教育図書の整備充実 <p>2 プログラミング的思考と情報活用能力を育成する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングを取り入れた授業の充実 ・低学年からの系統的な授業の実践 ・図書とデジタル機器、それぞれの良さを生かした調べ学習の充実 	<p>【達成状況】</p> <table> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>97.0</td><td>82.2</td><td></td></tr> <tr> <td>91.4</td><td>97.1</td><td>86.2</td><td></td></tr> <tr> <td>88.6</td><td>98.4</td><td>85.6</td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着実にICT機器の活用が浸透していると考えられるため、本年度の取組を継続する。引き続き、ICT機器と図書のそれぞれの良さを指導していく中で、今後も情報活用能力を高めていく学習効果の高い活動を充実させていく。 	児童	教職員	保護者	地域	※	97.0	82.2		91.4	97.1	86.2		88.6	98.4	85.6	
児童	教職員	保護者	地域																
※	97.0	82.2																	
91.4	97.1	86.2																	
88.6	98.4	85.6																	
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育てる教育の推進	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 80%以上</p>	<p>1 持続可能な社会に関する学習機会の設定と環境教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間「めざせ！エコマスター」や社会科、家庭科等における指導 ・道徳科「自然愛護」について考える授業の充実 ・児童会活動を通して、学校でできることについての協議、実践 	<p>【達成状況】</p> <table> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>57.6</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>90.9</td><td>57.1</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>88.9</td><td>78.1</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて、発達段階に応じて各教科等で指導を行い、理解を深めていく。 ・持続可能な社会のために、学校でできることを委員会活動などで話し合い、学校全体で実施していく。 ・児童が自分事として考えることを容易にする組織を編成する。 	児童	教職員	保護者	地域	※	57.6			90.9	57.1			88.9	78.1		
児童	教職員	保護者	地域																
※	57.6																		
90.9	57.1																		
88.9	78.1																		
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>1 校内支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級や通常の学級、かがやきルームにおける指導の充実 ・校内支援委員会の開催による特別な支援を要する児童に関する共通理解 ・「特別支援教育だより」等による情報提供 <p>2 個に応じた支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と、校内支援委員会での検討・活用 ・保護者、関係機関との連携による指導 ・合理的配慮の適切な提供 ・「交流及び共同学習」の在り方検討と実施 	<p>【達成状況】</p> <table> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>※</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>97.1</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>98.0</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の情報の共有を行い、引き続き全教職員で適切な支援を行っていく。 ・必要に応じて、なかよし班の担当、クラブ・委員会の担当、担任等、その児童に関わる教職員を集めた情報伝達の場を設定する。 ・特別支援教育に関する研修を継続し、教職員の指導力の向上を図る。 	児童	教職員	保護者	地域		※				97.1				98.0		
児童	教職員	保護者	地域																
	※																		
	97.1																		
	98.0																		

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的割合 95%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的割合 95%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p> <p>⇒地域住民の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 いじめの予防の取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に関する日常的な指導 ・いじめゼロポスターやいじめゼロ標語の実施 ・全校集会での校長講話や「いじめゼロ集会」 ・「人権集会」の開催 ・いじめをテーマとした学級活動や道徳科の授業実施 <p>2 いじめの早期発見のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友だちアンケート」「学校生活アンケート」の実施、「はあとポスト」「Q-U」の活用 ・教育相談の実施 ・いじめ等対策委員会の定期的実施と全校体制の支援の充実 <p>3 いじめ問題等が生じた際の確実な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく対応 ・組織的かつ迅速な対応と家庭や地域等との連携 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>98.9</td><td>97.0</td><td>80.9</td><td>※</td></tr> <tr> <td>97.6</td><td>100.0</td><td>86.8</td><td>90.9</td></tr> <tr> <td>97.4</td><td>99.5</td><td>82.0</td><td>93.7</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童個人の思いや悩みを把握し、いじめの早期発見に努めるため、「友達アンケート」と「学校生活アンケート」を継続して実施し、問題が明らかになったら直ちに適切に対応する。 ・いじめゼロ集会や人権集会を継続し、いじめや差別等、人権を傷つけたり、奪ったりする行為を絶対に許さない意識の向上を図る。 ・学校全体で、児童がいつでも他者に（教職員・児童）に相談できる雰囲気醸成に努める。 	児童	教職員	保護者	地域	98.9	97.0	80.9	※	97.6	100.0	86.8	90.9	97.4	99.5	82.0	93.7
児童	教職員	保護者	地域																
98.9	97.0	80.9	※																
97.6	100.0	86.8	90.9																
97.4	99.5	82.0	93.7																
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的割合 90%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>1 児童が居がいを感じられる学級の温かい雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認め励ます指導 ・児童相互の認め合い、支え合い <p>2 新たな不登校を生まないための早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友だちアンケート」「学校生活アンケート」の実施、「はあとポスト」「Q-U」の活用、教育相談の実施 <p>3 個に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策委員会や校内支援委員会の実施 ・当該児童や保護者との信頼関係に基づく電話連絡や家庭訪問の実施 ・保健室や図書室等における別室登校への対応など、段階的な支援の計画と適切な実施 ・S Cや専門的機関との連携 ・デジタル機器を活用した当該児童や家庭との交流、連絡 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>97.0</td><td></td><td>86.8</td><td></td></tr> <tr> <td>96.7</td><td></td><td>89.9</td><td></td></tr> <tr> <td>96.3</td><td></td><td>90.4</td><td></td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新たな不登校を生まないための早期対応」を活用し、児童と向き合う時間を取り、問題の解決に努める。 ・欠席が続く児童に対する電話連絡や家庭訪問を継続して行い、家庭との連携を強化する。 ・別室登校ボランティアなど外部の人材を可能な限り活用し、段階的な支援を充実させる。 	児童	教職員	保護者	地域	97.0		86.8		96.7		89.9		96.3		90.4	
児童	教職員	保護者	地域																
97.0		86.8																	
96.7		89.9																	
96.3		90.4																	
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p>	<p>1 活気ある学校づくりのための各種取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の課題に対する積極的な対応 ・認め励ます教育を中核とした指導と支援 ・児童会活動、行事、集会、学級活動、縦割り班活動の充実（啓発・広報活動の活性化） ・各種たよりと学校HPによる学校活動の情報発信 <p>2 教職員の率先垂範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気のある職員の育成と職員室づくり ・主要な校務分掌への若手教員の積極的登用 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td></tr> <tr> <td>97.1</td><td>97.1</td><td>91.3</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>96.3</td><td>99.7</td><td>89.1</td><td>98.1</td></tr> </table>	児童	教職員	保護者	地域	※	※	※	※	97.1	97.1	91.3	100.0	96.3	99.7	89.1	98.1
児童	教職員	保護者	地域																
※	※	※	※																
97.1	97.1	91.3	100.0																
96.3	99.7	89.1	98.1																
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的割合 90%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p> <p>⇒地域住民の肯定的割合 85%以上</p>		<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級における当番活動や係活動の工夫により、一人一人が学級の中で役割を果たしそれを他者から認められる、温かい学級づくりを目指す。 ・教職員からの積極的な声かけや挨拶を継続していく。 ・「戸祭の子表彰」や「宮っ子心の教育表彰」を生かした認め励ます教育を推進する。 ・縦割り班活動や児童会活動を充実させる。 																

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 95%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業 ・見通しがもてる「めあて」の提示 ・学び合いを効果的に取り入れた授業の展開 ・習熟度別・TT 学習などの、個に応じた指導 ・発問や板書の工夫 ・デジタル機器の効果的な活用 ・学びをまとめ、振り返る活動の充実</p> <p>2 学習内容の理解・定着を図る指導の充実 ・個に応じた指導の充実 ・各種学習シート等の活用 ・家庭学習ノートの点検、良いノートの紹介</p> <p>3 教職員の指導力向上 ・互いに授業を見合える雰囲気づくりの醸成と授業研究の実施 ・自己目標シートにおける目標設定と目標管理</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.7</td><td></td><td>81.0</td><td></td></tr> <tr> <td>97.1</td><td></td><td>84.6</td><td></td></tr> <tr> <td>97.1</td><td></td><td>86.5</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】 ・特に算数科の指導を通して、学びの深化を目指した指導や取組を徹底する。また、それらについて、各種たよりや学校HP等を活用し、保護者へも広く周知する。 ・自律的な学習習慣の獲得や学習内容の習熟・定着を目指し、効果的な家庭学習への取り組み方について、随時児童や保護者に情報提供を行う。</p>	児童	教職員	保護者	地域	97.7		81.0		97.1		84.6		97.1		86.5	
児童	教職員	保護者	地域																
97.7		81.0																	
97.1		84.6																	
97.1		86.5																	
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 95%以上</p>	<p>1 多様な専門性を有する各種の学校スタッフの活用 (学校図書館司書・ALT・かがやきルーム担当・SC・特別支援学級担当・学校業務担当・日本語指導講師 等) ・学校全体としての課題や各種教育活動への、全職員による連携・協力を可能にする話し合いや活動時間の確保</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>93.9</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>85.7</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】 ・全職員、専門性のあるスタッフと連携し、各教育活動の充実を図る。 ・一人一人の教職員の思いや考えを尊重し合い、互いに認め合うことができる雰囲気づくりに努める。 ・全教育活動において職員が連携して実施できるよう、計画立案者は内容や日程を検討し、計画的に実施していくことを徹底させる。</p>	児童	教職員	保護者	地域		93.9				85.7				95.7		
児童	教職員	保護者	地域																
	93.9																		
	85.7																		
	95.7																		
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上</p>	<p>1 勤務時間や職務の効率化への意識の向上を図るための啓発 ・会議等における職員への繰り返しの周知 ・職務の優先順位の的確な判断に基づく計画的な職務遂行の促し ・付き合い残業の一掃</p> <p>2 業務の効率化 ・作成文書の簡略化 ・会議、研修等の勤務時間内の終了 ・ミライム、学習情報システム、ポータルサイトの有効活用 ・効率化とスリム化の視点からの、職務や各種行事等の見直しと改革の奨励</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>※</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>71.4</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>85.7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>【次年度の方針】 ・放課後の会議等の効率的な進行やICTを活用した打合せ時間の削減に努めるとともに、職員間の円滑なコミュニケーションの維持も心がけ、組織としての一層の向上を目指す。</p>	児童	教職員	保護者	地域		※				71.4				85.7		
児童	教職員	保護者	地域																
	※																		
	71.4																		
	85.7																		

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 85%以上	1 星が丘地域学校園教育ビジョンに基づく取組 ・「認め合い、学び合い、高め合う児童の育成」に向けた、児童の自己肯定感を高める指導の重視 2 小中連携の取組の実施 ・各部会、分科会の計画的実施 ・小6児童の中学校訪問 ・中学校教諭による乗り入れ授業 ・中1生徒に関する中学校側との情報交換 ・養護教諭、事務職員、学校栄養士等の一人職職員間の連携と相互支援 ・各教科の授業づくりに係る合同研修の実施 ・学校HPを活用した「小中一貫教育・地域学校園」の取組についての広報活動	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>※</td><td>※</td><td>81.5</td><td>※</td></tr> <tr> <td>92.3</td><td>80.0</td><td>84.1</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>89.6</td><td>92.6</td><td>80.7</td><td>94.1</td></tr> </table> 【次年度の方針】 ・学校HPや各種たより・さくら連絡網等を通して、「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関する広報活動の充実を図る。 ・星が丘地域学校園での一人職（教科主任を含む）の連携と相互支援を今後も充実させていく。 ・宮っこチャレンジの受け入れ、小中合同あいさつ運動の実施等、児童生徒レベルでの交流活動を今後も継続していく。	児童	教職員	保護者	地域	※	※	81.5	※	92.3	80.0	84.1	100.0	89.6	92.6	80.7	94.1
児童	教職員	保護者	地域																
※	※	81.5	※																
92.3	80.0	84.1	100.0																
89.6	92.6	80.7	94.1																
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 85%以上	1 戸祭小地域協議会を生かした地域と共にある学校づくりの推進 ・児童の安全確保や授業支援における学校支援ボランティアの積極的活用 2 地域の教育資源を活かした活動の実施 ・生活科や総合的な学習の時間等における、地域の店舗や事業所、地域人材を活用した学習活動の実施（校外学習、出前授業） ・幼稚園保育園、中学校、地域の高齢者、豊学校との交流活動の実施 3 保護者・PTAとの日常的な連携	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>90.9</td><td>85.9</td><td>※</td></tr> <tr> <td></td><td>94.3</td><td>87.0</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td></td><td>98.6</td><td>89.2</td><td>97.1</td></tr> </table> 【次年度の方針】 ・各教科の年間指導計画との関連を協議検討しながら、学校支援ボランティアや地域人材の積極的活用を継続する。また、学習のねらいの達成に効果がある出前授業を積極的に実施する。 ・地域の教育資源を学習活動に効果的に活かせるよう、実施の時期や内容を工夫する。 ・地域資源の更なる発掘を図り、学習の幅を広げていく。	児童	教職員	保護者	地域		90.9	85.9	※		94.3	87.0	100.0		98.6	89.2	97.1
児童	教職員	保護者	地域																
	90.9	85.9	※																
	94.3	87.0	100.0																
	98.6	89.2	97.1																
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域住民の肯定的割合 85%以上	1 施設整備の整備 ・迅速な修理修繕体制の確立 ・安全点検の実施（毎月） ・安全点検による修繕箇所の即座の対応 ・看板やポスター等による危険箇所の周知	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>100.0</td><td>87.5</td><td>※</td></tr> <tr> <td></td><td>100.0</td><td>90.6</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td></td><td>98.3</td><td>90.4</td><td>96.0</td></tr> </table> 【次年度の方針】 ・今後も学校安全だより・学校だより等で保護者・地域へ学校の取組を紹介する。 ・利用する側の安全に十分配慮してより多くの目で日常の点検を実施し、危険箇所を発見した場合は迅速に対処し、万全を期す。	児童	教職員	保護者	地域		100.0	87.5	※		100.0	90.6	100.0		98.3	90.4	96.0
児童	教職員	保護者	地域																
	100.0	87.5	※																
	100.0	90.6	100.0																
	98.3	90.4	96.0																
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	1 デジタル機器の適切な管理と活用 ・50 インチディスプレイ、1人1台端末、実物投影機、デジカメ等の整備と日常的な活用 ・効果的な活用に関する職員研修の充実	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td></td><td>※</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>94.3</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>94.9</td><td></td><td></td></tr> </table> 【次年度の方針】 ・メリットやデメリットを比較検討し、授業でのICT活用を推奨したり教材・データを共有したりすることで、さらなる効果的活用を実現させる。	児童	教職員	保護者	地域		※				94.3				94.9		
児童	教職員	保護者	地域																
	※																		
	94.3																		
	94.9																		

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。	1 児童会によるあいさつ推進活動 ・週2回、昇降口と教室前でのあいさつ運動 ・下学年も参加可能なあいさつ運動の展開の工夫 ・会釈の推進 2 中学校と連携した合同でのあいさつ運動 3 授業や集会時の語先後礼のあいさつ指導 4 教職員による率先垂範 5 児童相互や来客、登下校時の見守り等でお世話になっている人などへのあいさつ指導の継続	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>※</td><td>69.7</td><td>83.6</td><td>90.9</td></tr><tr><td>92.9</td><td>88.6</td><td>86.2</td><td>90.9</td></tr><tr><td>91.8</td><td>90.8</td><td>83.9</td><td>92.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・「自分から挨拶」・「挨拶返し」・会釈の指導を学級、学年ごとに継続する。 ・学校全体で挨拶が日常化する環境を作ったり、児童会を中心に、児童主体のあいさつ運動を工夫・展開したりして、形骸化しないようにしていく。 ・他団体との連携を図り、地域を挙げて挨拶の習慣化を促進していく。	児童	教職員	保護者	地域	※	69.7	83.6	90.9	92.9	88.6	86.2	90.9	91.8	90.8	83.9	92.1
	児童	教職員	保護者	地域																
※	69.7	83.6	90.9																	
92.9	88.6	86.2	90.9																	
91.8	90.8	83.9	92.1																	
B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	1 基本的生活習慣と規範意識に係る指導 ・「戸祭小よい子のきまり」と「戸祭小ナビ」の掲示と指導の徹底 ・本校の合言葉「けじめ がんばり 思いやり」の周知の徹底 2 生活目標の設定と評価 ・帰りの会での振り返り（児童相互の認め合い）の実施 ・教職員による週番活動の実施による点検 ・給食時の放送での周知と昼休み等の校内巡回	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>※</td><td>81.8</td><td></td><td></td></tr><tr><td>93.3</td><td>91.4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>92.8</td><td>93.1</td><td></td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、「戸祭小よい子のきまり」や「戸祭小ナビ」について全校集会や放送等でも確認する時間を設け、周知徹底を図る。 ・日々生活目標を意識しながら生活できるよう声掛けを行うとともに、週番（教職員）による点検結果から次の生活目標を設定するなど、児童の実態に即した指導を行う。	児童	教職員	保護者	地域	※	81.8			93.3	91.4			92.8	93.1		
児童	教職員	保護者	地域																	
※	81.8																			
93.3	91.4																			
92.8	93.1																			

B3以降、達成状況は令和5年度の値のみ												
	B 3 児童は、「ありがとう」の感謝の気持ちを相手に伝えることができる。	1 感謝の気持ちをもち、高め、伝えるための取組の実施 ・2か月に1回（各月10日）の「ありがとうの日」の設定 ・投稿された「ありがとうカード」の児童会による読み上げ発表 ・廊下壁面への「ありがとうカード」の掲示 ・教職員自身の率先垂範 ・異学年交流の場を活用した思いやりの心の醸成	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.0</td><td>94.3</td><td>93.2</td><td>100.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・道徳や学活の授業を通して、「ありがとう」を言うことの意義や良さを考えさせ、自然に「ありがとう」の言葉を発することができる児童の育成を目指す。 ・児童の言動や行動に目を向け、よい行いに気付いた際には、教職員自身が時を逃さず全体の場で「ありがとう」を伝える姿を見せることで、児童の意識の向上を図る。	児童	教職員	保護者	地域	96.0	94.3	93.2	100.0
	児童	教職員	保護者	地域								
96.0	94.3	93.2	100.0									
	B 4 児童は、自分のよさを自覚し、自身の存在に安心感と可能性を自覚して生活している。	1 児童のよさや努力を認め励ます指導の推進 ・担任だけでなく全教職員による認め励ます指導の日常化 ・児童が相互に認め合う機会の設定 ・児童のよさや努力についての教職員相互の伝え合い ・保護者への積極的な連絡 ・児童の作品（掲示物）への肯定的コメント記入 ・児童のよさや努力について、保護者や地域との共有を目指した学校HPの活用	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>93.6</td><td>100.0</td><td>90.4</td><td></td></tr></table> 【次年度の方針】 ・全教職員による児童の良さや努力を認め励ます指導を継続して推進。結果だけではなく、努力の過程も称賛する。 ・児童が相互に認め合う機会を授業や帰りの会などで日常的にもつ。 ・児童の良さや頑張っている様子を学年だよりや学校HP等で伝えることで、学校と家庭とで児童の良さを共有し、児童が自己肯定感を高める機会にする。 ・全ての児童について、多くの目で多面的に良さを見つけて児童に伝え、各自が	児童	教職員	保護者	地域	93.6	100.0	90.4	
	児童	教職員	保護者	地域								
93.6	100.0	90.4										

			具体的に良さを自覚できるようにする。保護者に対しても、学校が見取った良さを積極的に伝えていく。								
B5 学校は、安全面の危機管理に、高い意識をもって取り組んでいる 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上	1 児童への安全指導の充実 ・毎月安全の日を決め、パワーポイント資料を活用した安全に関する話の実施 ・安全の日の学年だより等への掲載による周知 ・登下校指導の定期的実施 ・「ゴジ（ヨジ）ヘルパー」（5時の帰宅・ヘルメット・防犯ブザー）を合言葉に日頃の指導 ・実践的な避難訓練の実施 2 保護者・地域の協力による見守り活動 ・PTAによる登校時の巡回活動 ・学校支援ボランティアによるプールの見守り ・全校での引渡し訓練の実施	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>98.0</td><td>97.1</td><td>93.4</td><td>100.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・安全の日のパワーポイント資料の視聴は、必要に応じて学校全体で行う。 ・安全だよりの学校HPでの周知を継続する。 ・引渡し訓練実施時に避難訓練を実施し、年4回避難訓練を実施する。 ・登校指導立哨場所の見直しを行う。	児童	教職員	保護者	地域	98.0	97.1	93.4	100.0
児童	教職員	保護者	地域								
98.0	97.1	93.4	100.0								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（１）学校運営

今年度も、教職員の共通理解の下、本校の合言葉「けじめ・がんばり・思いやり」の観点から各種取組の充実を図ってきた。その結果、ほとんどの評価項目で児童からは昨年度同等以上の高い肯定的回答を寄せられており、多くの児童が「居がいのある学校」を実感していることが推察できる。昨年度は目標値を下回っていた「宇都宮学」や「持続可能な社会」についても、昨年度よりも児童の理解が深まっていることが数値から分かる。「保護者や地域の力を生かした協働的な学校経営」については、昨年度以上に児童や保護者の理解が深まっていることが数値から分かり、今後も地域に開かれた学校づくりを目指す本校の励みとなっている。しかし、「宇都宮学」については、教職員や保護者からは他の項目と比較して低い肯定的回答となっており、次年度はさらに指導の在り方を工夫改善していく必要もある。小中一貫教育の充実については、教職員・保護者ともに目標値に達しておらず、これに関しても次年度に向けての課題と捉えている。

（２）学習指導

算数科を中心とした校内研修に全教職員で取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「学び合い」の充実に取り組んできた結果、児童から「分かる授業」への高い肯定的回答が寄せられている。授業では、ICTを積極的に活用した指導や学習活動が、児童・教職員ともに当たり前のこととして認識されている。児童の協働的な学習の充実についても、効果的な授業展開の確立を目指して、共通理解を図りながら取り組んでいるところである。

（３）児童指導

挨拶・きまりやマナーを守った生活については、全評価対象者から高い肯定的回答を得た。校内独自の資料を活用したり、保護者の協力を得ながら連携したりして指導してきた成果であると考えられる。昨年度は本校の課題の一つとしてとらえていた「自己肯定感の認識」についても、目標を大きく上回った。学校全体での認め励ます指導の充実を心掛けてきたことが功を奏している。いじめや不登校を生まない温かい学校・学級風土の醸成についても、これまで同様全教職員で取り組んでいきたい。

（４）健康（保健安全・食育）・体力

健康や安全を意識した生活については、全評価者から目標値以上の高い肯定的回答を寄せられた。しかし、新体力チェックの結果からは、本校児童に多くの項目で課題があることが明らかになっている。そこで、運動に進んで取り組もうとする児童の育成及び体力の向上を目指し、運動する場の設定と教科体育の充実に取り組んでいるところである。今後も家庭と連携しながら健康を自己管理できる能力の育成に努めたい。

7 学校関係者評価

- ・「健康で安全な生活」に関しては、給食後の「歯磨きタイム」は、虫歯予防や綺麗な歯の維持に大変有効であった。復活させることは、児童が望ましい口腔衛生習慣を身に付けるためにも、適切である。
- ・「時と場に応じた挨拶」に関しては、児童に対する挨拶励行だけでなく、教職員が率先垂範して児童に挨拶を行って挨拶を交わしやすい雰囲気づくりに努めるなど、学校全体で取り組むとよい。
- ・「持続可能な社会の構築」については、児童なりに関心が高まっていると考えられる。教職員は、その小さな向上にしっかり目を向け、個々の意識の高まりを認めるようにするとよいのではないか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

ここ数年学校教育に大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことで、学校生活においても数々の制限が撤廃されつつある。しかし、すべての取組について機械的に以前の状態に戻すのではなく、児童のよりよい成長を第一に考えて、取組状況の見直しを行いながら次年度の方針を決定していく必要がある

（1）学校運営

次年度も、本校の合言葉「けじめ・がんばり・思いやり」の下、全児童にとっての「居がいのある学校」の実現を目指していきたい。教職員が目標値に達しなかった「宇都宮学」や「持続可能な社会への関心」については、教職員の一方的な期待水準で判断する前に、児童の現状を確実に把握し、その成長に目を向けて客観的な判断が行えるよう、自分たち自身の見方考え方を再検する姿勢を身に付けていきたい。また、「業務の効率化」についても、教職員各自が働き方を見直して周囲とサポートし合いながら工夫改善できるよう、必要な時間を確保し検討の場を設けることに取り組みたい。「小中一貫教育の充実」については、児童自身が肯定的に捉えている現状に鑑み、地域学校園の組織や研修の場を活用して、更なる教職員同士の情報交換や取組の検討に努めるとともに、その成果を保護者や地域に広報していくつもりである。

今後も「保護者や地域の力を生かした協働的な学校経営」の充実を継続していくために、次年度も、学校は保護者や地域と十分連携を図り、そのお力をお借りしたり支えていただいたりしながら学校教育目標の具現化に向けた学校運営を行っていきたい。

（2）学習指導

次年度も、算数科を中心として「主体的・対話的で深い学び」を実現させながら、確かな学力を育む教育の推進と教職員の指導力向上に努めていく。本校においてもICT機器の授業での活用の頻度は十分高く、児童にとっては既に不可欠の学習用具となっている。今後も、教職員は試行錯誤しながら効果的な活用方法を目指して実践を積み、児童の学力向上に役立てていくつもりである。

（3）児童指導

いじめや不登校を生まない温かい学校・学級風土の醸成を目指して、全教職員で協力して取り組んでいきたい。本校児童の良さの一つである「挨拶・きまりやマナーを守った生活」の実践への児童の意欲を維持するためにも、教職員自身が範を示して共に高め合っていきたい。引き続き児童が高い「自己肯定感」を実感できるよう、学校と保護者が連携しながら認め励ます指導の充実を心掛けていきたい。

（4）健康（保健安全・食育）・体力

新体力チェックの結果から明らかになった本校の課題である「体力の向上」を実現させるために、運動への意欲を高め、楽しみながら進んで体力づくりに取り組もうとする態度を児童に育てていく。体育の学習の時間のみならず、児童が自主的・自発的に運動に親しもうとする場を工夫して設け、運動の日常化を図りたい。今後も家庭と連携しながら、健康を自己管理できる児童の育成に努めたい。